

石 すとーん・さーくる

No.82

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2013年2月10日 発行

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

長岡市柄堀の青色道祖神

長岡市 星野 紀子

新潟県長岡市柄堀（旧柄尾市）の字妻の神には、青色に彩色された双体道祖神が石祠に納められている。

旧柄尾市には双体道祖神の数が多く、県内の三分の一を占めるといわれている。その多くは男性が杯、女性が徳利を持つた祝言の姿をしている。ここ柄堀の双体道祖神はほぼ同じ形に彫られた二体が並列しているといった像容で、柄尾の他の双体道祖神とは明らかに違った像容である。

横山旭三郎著『新潟県の道祖神をたずねて』（昭和五十五年・野島出版）の表紙を飾っているが、本来は石祠に入つていて覗くとわずかにそのお姿が見える程度である。横山氏によれば、いつ、誰が色を塗るかを知つている人には会わなかつたと言ふ。また、この神様を見ると目がつぶれると言ふ。土地の人も見た人は少なかつたと書かれている。

この道祖神には、前年中に結婚した人がお明かしを持って正月十五日に、お参りすることになつてゐるとも書かれていたが、現在、そのような行事は執り行つていない。



青色に彩色された双体道祖神



青色道祖神安置の石祠

（日本石仏協会『日本の石仏』一四三号より転載）

この道祖神が青色に彩色された意味合いやどのようなとき、どのようにして彩色したものなのか、今は知る人もいなくなつたが、守門岳の麓、刈谷田川の上流に位置する柄堀の出入り口、大杉の根元で、しっかりと地域を守つてゐる。

旧下田村の道祖神・石仏を探ねて

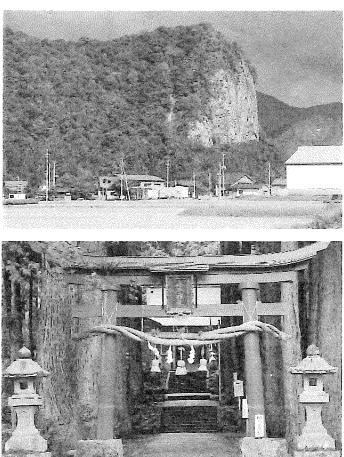
—下越地区見学会報告—

柏崎市 渡邊三四一

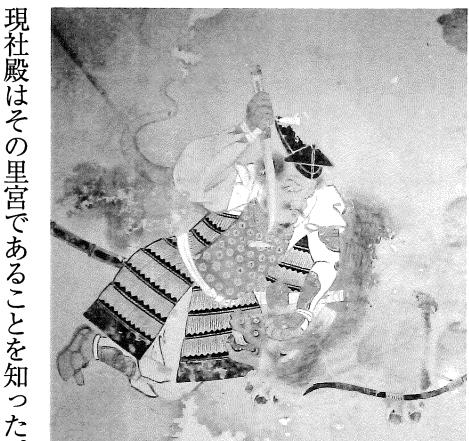
昨年十一月六日（火）、双体道祖神の密集地帯として知られる旧下田村で見学会が行われた。地元三条市の大野鉄男氏から懇切なご案内を頂き、参加者二十二名は同地区的個性ある道祖神信仰に触れた。その概略を報告したい。

集合場所の「いい湯らてい」から車に分乗し、最初の見学地・八木神社に向う。

石澤功宮司の出迎えを受け、拝殿で神社の歴史などを伺う。創建は古く大同二年（八〇七）で、八木が鼻山頂に八木大明神・守門大明神の二神を勧請したという。山岳信仰と同様、断崖絶壁の名勝「八木が鼻」に対する自然崇拜が根っこにあり、



名勝・八木が鼻と八木神社（下）



鶴を退治する頼政（八木神社・大絵馬部分）

門川流域を巡った。下田地区の道祖神について私なりに気づいた点を記しておく。まず一点は、隣接する旧柄尾市と同様、下田郷でも一か所に複数の造塔が見られる点が特徴であろう。北五百川山神社六基、大谷地山神社一四基、笠堀入口路傍五基といった具合である。各地の群像を注意して見ると、劣化の度合や姿態の違いによる新旧の差が明瞭で、単純に散在していたものを集めた結果とは考えられない。特に大谷地のように一四基もあるのは、やはり繰り返し別な石工による造塔が行われたことを教えてくれる。

現社殿はその里宮であることを知った。拝殿内には様々な奉納額があり、これについても興味深い説明を受けた。正面左右には当社の神使であるハヤブサの木彫額が掲げられるが、今でも実際にその飛翔を目にすることできる。珍しいものでは「源頼政の鶴（ぬえ）退治の図」がある。

鶴とは頭が猿、胴が狸、手足が虎、尾が蛇という伝説上の妖怪で、これを退治した頼政の武勇を表現したものである。これなどは県立歴史博物館の「妖怪」展に出品してもよい立派な大絵馬であった。

八木神社を跡にし、いよいよ石仏探訪である。横山旭三郎氏によれば下田地区には六九基もの双体道祖神が二三か所に所在するという。私たちが特に集中的に分布する八木が鼻から南の五十嵐川・守



道祖神群と仲良く並んで（大谷地山神社前）

二点目は、双体像の持物である。タイプで言えば、男女神が並び立つ「並立像」に括られるが、手にしているものが他の地域とは異なる。北五百川山神社の例では、男神は笏（しやく）状のものを、女神は玉状のものを捧げ持っている。一方、南五百川諏訪神社では左の神像は合掌し、右はやや扁平な杓子状の柄の部分を両手で握る。それが何であるかは、今も判然としない。像容のバリエーションも、この地の特徴である。

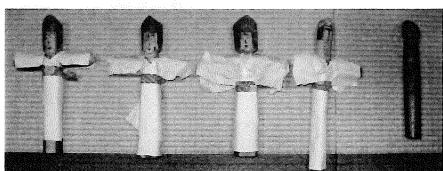


南五百川諏訪神社の双体像

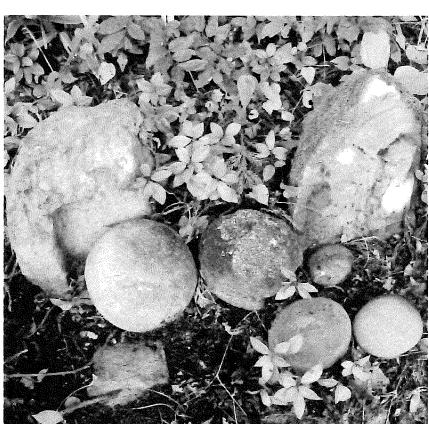


北五百川山神社の双体像

三点目は、道祖神に丸石が奉納されていいる例が、笠堀と栗山の二か所に見られたことである。おそらく付近の河原で見つけた珍しい丸い自然石を道祖神に手向けてものであろう。山梨県の丸石神とまではいかないが、丸い石に神靈が宿るとする信仰が窺えるよう思う。



サイノカミの親子と陽物（津谷）



栗山の道祖神場に手向けられた丸石

創立20周年記念事業

「私の一押し石仏」による協力を

当会創立20周年を記念し、今秋、新潟県立歴史博物館で企画展「石仏の力」を開催します。展示室前ロビーでは、当会の活動を広く来館者に紹介するスペースを設けます。

その大きな柱が、当会会員による「私の一押し石仏」コーナーです。皆さんから提出頂いたカードをもとにパネル展示をして、来館者に本県の豊かな石造文化に触れてもらいたいと考えておられます。

つきましては前号同封の情報カードに必要事項を記入し、お気に入りの石仏写真（カラーリ・2L判）を同封の上、三月末日まで左記担当まで郵送下さいますようお願い申し上げます。なお、メールでの提出も受け付けます。不明な点は事務局までお問合せ下さい。

■送付先

〒959-0318 弥彦村麓6592

柏原路子

■メールアドレス

etigosado@niigata-sekibutsu.voxx.jp

■締切り 平成二十五年三月末日

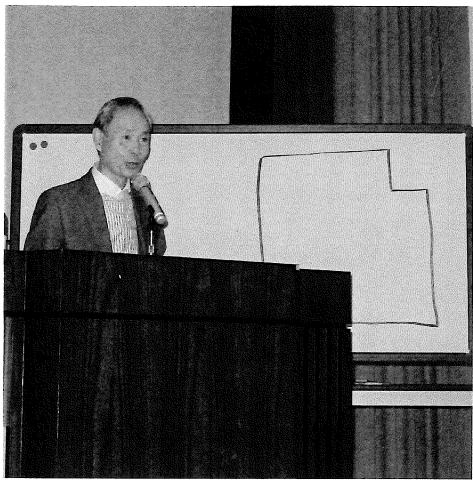
事務局だより

◇第十六回「石仏フォーラム」報告

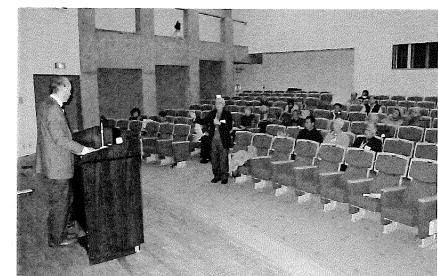
昨年十一月十八日（日）、新潟県立生涯学習推進センター（新潟市女池）で「第十六回石仏フォーラム」が開催され、四一名（一般八名含む）の参加がありました。

第一部「公開講演」では、新潟県民俗学会会長・佐藤和彦氏より「にいがた民俗散歩—私の写真帖から—」という演題でお話を頂きました。

半世紀にわたる豊かなフィールド・ワークのご経験とその際に撮影された貴重な写真の中から、特に今回は石仏に焦点を当て、村上市大毎の太平山塔や阿賀町津川の古四



王の祠など、本県では珍しい石造物を紹介頂きました。またレジメに掲載の栗島浦村内浦の路傍に立つ板碑群の写真は、観音寺に集められる以前の姿を教える貴重な画像資料で、境内安置後の板碑しか知らない者にとって大変興味深いものでした。写真のチカラを感じた次第です。

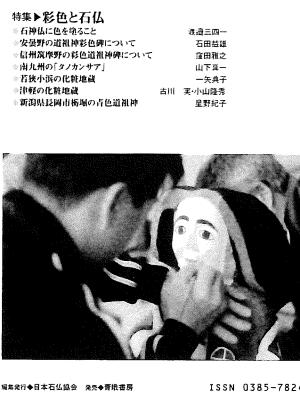


第二部「調査研究報告」では、調査報告として「石敢當考—フィールド調査の楽しみ」を長岡市・桑野なみ氏が、見学会報告として「『富士山と丸石神の里を歩く』参加報告」を津南町・桑原和位氏が、同じく「旧下田村（現三条市）の双体道祖神」下越見学会からーーを長岡市・星野紀子氏が発表されました。

今回のフォーラムは研修室が取れず、大きなホールでの開催でした。新潟市の会員の方々による広報のお陰で、一般参加も八名あり、大変助けられました。この場を借りてお礼申し上げます。

（渡邊）

◇今年度会費未納の方へ



発行が大変遅れましたこと、お詫びします。いよいよ二〇周年の年です。皆さんのお力添えをお願いします。

編集後記

今回のフォーラムは研修室が取れず、大きなホールでの開催でした。新潟市の会員の方々による広報のお陰で、一般参加も八名あり、大変助けられました。この場を借りてお礼申し上げます。

昨年十月刊行の『日本の石仏』一四三号（日本石仏協会）では、「彩色と石仏」をテーマに特集を組みました。企画には当会の渡邊三四一が参画し、南九州のタノカンサア（田の神）や信州の彩色道祖神、京都はじめ若狭・青森に及ぶ化粧地蔵など、石仏に色を塗る各地の事例を現地研究者が紹介しています。本紙一頁の星野会長の「石仏散歩」は、そこに掲載されたものを転載させて頂きました。